

# 13桁トラス16体で大空間

## 中国地区初の新金物で

### タツミと大山プレカット

大開口や長スパンを可能にするタツミ（新潟県見附市、山口紳一郎社長）の接合金物テックワンP3十（プラス）を使った中国地方初となる建築物の構造見学会が2月27、28日に鳥取県米子市の天然乾燥施設で行われた。

見学会会場は、淀江木材工業（鳥取県米子市、吉岡総一郎社長）が隣地に買い増した土地に建設中の天然乾燥施設。テックワンP3十を用いて組んだ13桁長のトラス16体を2桁

間隔で使用し、13×32桁、延べ床面積416平方桁の長スパンの大空間を実現した。現地は山陰の名峰・大山の麓に立地し、1桁の積雪荷重を想定して通常より梁せいを高

めに設定した。そのため6桁×120×330の梁や120の角の小屋東部分には欧州のアカ松の構造用集成材の既製品を用いたが、120の角、150の角の柱や土台、間柱な



6、4、4桁の梁材等で13桁のトラスを組んで建てられた

どには主に地元産の検査材料品を使用した。13桁長のトラスフレーム1体の製作時間は約30分。建て方作業は、強風で一時作業を中断しながらも約2日半で終了した。

D入力の経験を今後の営業に生かす考えだ。今回の木材天然乾燥施設の建設は、県の緑の産業再生プロジェクト事業の補助を受けたもので、施設を効率的に運用

部材加工は大山プレカット協業組合（同西伯郡、吉岡朋美理事長）が担当した。「入力に苦労したが、99%を機械で加工できた」（同組合）と斜め加工ができるプレカット機ではば対応。今回のCA

見学会には県外からの来場を含め2日間で72人が参加。初日は別会場でタツミの構造設計担当者が「非住宅木造建築の設計と実例」をテーマにセミナーを実施し、36人が参加した。「最近はこちらのセミナーの開催依頼が増えており、参加の申し込みも多い」（同）という。